

厳島神社：高坏

この赤い漆塗りのお皿は、米や酒、鯛（縁起が良いと考えられている魚）などの食べ物や飲み物を神社の神様に供える時に使われていました。そのようなお供え（神饌）はおそらく毎日行われていましたが、とりわけ収穫後や年に数回ある神社の祭事（お祭り）の時には豪華になる傾向があります。神道の慣習では、人間は神々の存在を祈願して食べ物や飲み物、その他の消耗品のお供え物を贈ると考えられています。そのようなお供え物は通常、上質の酒や形の整った果物、鯛のような珍しいごちそうなど、地元で手に入る最高級品質の、食べ物や飲み物、季節のものです。供える品は時代、神事や地域によって異なることがありますが、たいていは海鮮物や農産物、塩、水、そして米と日本酒です。主要穀物の米と、それを原料とする酒は、日本の暮らしと文化に深く浸透しています。